

## 【国指定・史跡】

# あ た か い づ か 阿多貝塚

(令和2年3月24日指定)



(南さつま市教育委員会提供)

- 所在地 南さつま市金峰町宮崎6327-1
- 所有者 南さつま市
- 特徴

阿多貝塚は、薩摩半島の西岸部に位置する縄文時代前期を中心とする貝塚遺跡である。遺跡は、薩摩半島から東シナ海へ注ぐ万之瀬川水系の支流、堀川によって形成された田布施平野において東側の金峰山山系から北西方向に突き出た標高約9mの舌状台地上に立地する。

本遺跡は、「阿多V類」の標式遺跡であり、塞ノ神式土器と轟式土器との土器編年上の新旧関係を考察する上でも重要な役割を果たしたことで学史的に著名である。また、本遺跡の貝層の下部及びその下のアカホヤ火山灰層の上部からは轟式土器と曾畑式土器が豊富に出土している。アカホヤ火山灰層の下層には縄文時代早期の押型文土器や塞ノ神式土器、アカホヤ火山灰層の上部と貝層の下部には縄文時代前期の土器、それよりも上層からは中期の並木式土器や阿高式土器が包含されており、南九州における縄文土器の形式変遷が層位的に確認されている。アカホヤ火山灰は遠く関東地方まで降下が及んでおり、広域に同時存在した土器型式を検証する上でも本遺跡の出土状況は重要である。また、石鏃・石匙・石斧・棒状敲石・磨石などの石器やイノシシ・シカなどの獣骨をはじめとする動物遺体も豊富に出土しており、これらの出土遺物から本遺跡に暮らした人々の生業活動と貝塚形成時の遺跡周辺の自然環境の一端を窺うことができる。